

7-4

地域と施設の町づくり！

地域に溶け込む施設として

地域特徴の把握

施設の開放

緑苑在宅介護支援センター

介護予防コーディネーター 比留間 貴

東京都府中市緑町1-39-3

TEL：042-367-6215

E-mail:midori@tama-dhk.or.jp

FAX：042-367-1012

URL:http://www.tama-dhk.or.jp

緑苑

昭和35年母子寮の一棟を保護施設（養老施設）として信愛寮開設、平成6年に養護老人ホーム信愛寮及び併設小規模特別養護老人ホーム信愛緑苑として緑町に移転。定員、養護老人ホーム50名、特別養護老人ホーム30名と在宅介護支援センター、居宅介護支援センターを完備した高齢者総合福祉施設です。

<取り組んだ課題>

- 地域にどのように施設を受け入れてもらうか？
- 地域活動への参加
- 地域と共に作る行事

<具体的な取り組み>

- 施設移転、開設についての地域への説明会を自治会、各団体へ行方事で施設への理解を図っていった。
- 施設の機能を地域に利用、理解してもらうためにPR活動（チラシ、ポスター）を作成、施設に足を運んでもらうことを行った。
- 地域ボランティアを受け入れる事で職員の意識も地域へと向けていく。（喫茶ボラを中心に）
- 地域との防災協定を結び
- 老人会への参加。
 - ・利用者が老人会の会員となり地域の活動、行事に参加していく。
- 公園清掃への参加。
- 地域のお祭りを開催した。
 - ・町会との共催で納涼祭を実施
 - ・町会との共催で餅つき退会を実施

<活動の成果と評価>

- 施設移転前からの説明会の実施。それにより、地域住民への理解を得る事ができた。
- 施設の機能を理解してもらうためのPR活動は職員の地域に開かれる施設という、意識を高めた。施設内での活動に止まらず常に地域を意識した活動へとつながった。
- 施設内の喫茶店をボランティアの力で運営することで地域との係わりもでき、利用者の生活にも広がりがあった。
- 地域の力を借りる事で利用者の安全を確保する事ができた。
- 利用者の生活の幅や活躍する場を施設の中だけでとどめず、地域という場所へ広げる事ができ地域との関係も作る事ができた。
- 地域と共催で行う2つの行事は地域のお祭りとして定着、800名からの参加と地域と施設が一つになる瞬間である。

<今後の課題>

- 在宅介護支援センターの役割
 - ・施設をどのように活用してもらうか。
 - ・地域の特徴を把握する。
 - ・地域との関係作り。
- 地域力を高める支援
 - ・地域が抱える問題を側面的からサポートし共に考える。
 - ・問題を解決へと導くための支援